

神々を繋ぐ者 日吉神社の七社立会神事における竜王の舞の位置

橋本裕之

Those who Integrate Gods: The Location of the Ryuo-no-Mai in Nana-sha Tachiai Shinji at Hiyo-shi-jinja Shrine

はじめに

- ① 播磨地方における竜王の舞
- ② 日吉神社の七社立会神事
- ③ 七社立会神事における七社
- ④ 石部神社の竜王の舞
- ⑤ 日吉神社の竜王の舞
おわりに

【論文要旨】

兵庫県播磨地方に少なからず分布している竜王の舞は王の舞の典型をなぞっている一方、いわゆる王の舞に見られないユニークな特徴をいくつも備えており、個々の祭礼において新しい相貌を派生させていったことをしめしているといえるだろう。本稿はその一端を扱うべく、兵庫県加西市和泉池上に鎮座する日吉神社の七社立会神事に登場する竜王の舞をとりあげる。日吉神社の竜王の舞は七社立会神事を構成する要素として文脈化されることよって、王の舞が持つ一般的な特徴を踏襲しつつも特異な存在形態を獲得しており、王の舞が個々の祭礼において個性的に展開しているという消息の一端をしらせる。こうした消息は王の舞の芸能史を記述するための、きわめて有効な手がかりを提供しているはずである。

本稿は播磨地方における竜王の舞を概観した上で、七社立会神事の概況を紹介する。また、七社立会神事における七社の中身が変動していたことを提示する一方、日吉神社の竜王の舞のみならず七社立会神事に類似した形式を持つ石部神社の祭礼にかつて

登場していた竜王の舞にも言及することによって、日吉神社の七社立会神事における竜王の舞の位置について考察する。その結果として、竜王の舞が七社立会神事に参加する神々、そして人々をも統合する演劇的な装置として文脈化されていた情報が浮かびあがってきた。

七社立会神事における竜王の舞は神輿の立会に伴って場の緊張感が最も高まる瞬間に登場しながらも、喧嘩と哄笑を呼びおこすことよって社会的な葛藤の所在を人々に強く意識させる一方、同時にそのような葛藤を斜線を引いてしまうような実践であったと考えられる。すなわち、竜王の舞は七社立会神事じたいが抱えこまざるを得なかった理念と実際の葛藤を人々に意識させつつも同時に横転させる実践であり、七社立会神事を文字どおり構成する方法、いわば神々を繋ぐ者として登場したのである。そして、こうした相貌は依然として王の舞が持つ一般的な特徴を踏襲しているという意味において、王の舞の芸能史にも接続しているのである。